



JAあそだより

平成22年 10月



掛け干し(高森町草部)

2010
秋

VOL.53

■今号16ページ主な内容

- 第35回 JA 阿蘇青壮年部研修会
- 年金友の会グラウンドゴルフ・ゲートボール大会
- 各生産部会の生育・出荷状況
- 各地区で「農業体験」盛んに行われる

JA 阿蘇農業協同組合

本所 〒869-2612 熊本県阿蘇市一の宮町宮地387-5
TEL 0967-22-6111/FAX 0967-23-1088

県大会出場4部門の代表決まる

「盟友の主張」

中村和章さん(白水支部)

「組織活動実績」

高森支部

「手づくり看板コンクール」

一宮支部・高森支部

「JA青年の歌コンクール」

宮崎和成さん(長陽支部)

JA阿蘇青壮年部は8月5日、一宮中央支所で部員・阿蘇地域振興局・JA関係者ら約70人が参加し、青壮年部研修会を開きました。

地域農業のリーダーで重要な担い手である青壮年部が、将来を見通した自立農業経営の確立を目指すことを目的に「盟友の主張」「組織活動実績」「手づくり看板コンクール」「JA青年の歌コンクール」の4部門で日頃の活動実績を発表しました。

盟友の主張では、白水支部の中



村和章さんが実体験に基づいた農業経営について熱く語った「今の想い」が最優秀賞に選ばれました。また、組織活動実績発表では高森支部、手づくり看板コンクールでは一宮支部と高森支部、JA青年の歌コンクールでは長陽支部の宮崎和成さんがそれぞれ最優秀賞に選ばれました。

当日最優秀賞に選ばれた関係者は10月28日、熊本市のホテル日航熊本で開かれるJA熊本県青壮年部大会にJA阿蘇代表として出場します。

(写真上)「盟友の主張」で最優秀賞に選ばれた中村和章さん

JA阿蘇第2回アームレスリング
県大会青壮年部代表に
岩村雄太さんと宮崎和夫さん

「日頃、鍛えた腕つぶしで勝負しよう」と、JA阿蘇青壮年部は8月9日、部員・JA関係者ら約30人が参加して本所管農部で第2回青壮年部アームレスリング大会阿蘇予選を開きました。

予選には日頃、農業で鍛えた力自慢の部員が各支部より14人出場し、熱戦を繰り広げました。この大会は2009年より始まり、地方大会、県大会、九州大会と競われます。

JA阿蘇新入職員5人が
農業体験「農家実習」

農家と寝食を共にし、農作業を体験する農家実習が7月29日から31日までの3日間行われ、今年のJA阿蘇新入職員5人が体験しました。

この農家実習は、農業体験の少ない新入職員を対象に、農業や農家の生活等について知識を深め、

競技の結果、岩村雄太さん(阿蘇支部)が優賞し(県大会ではJA阿蘇の名前に恥じぬよう優勝目指して頑張ります)と、意気込みを熱く語りました。当日優勝した岩村さんとう位の宮崎和夫さん(小国郷支部)は、10月28日ホテル日航熊本で開かれる県青壮年部大会に、JA阿蘇代表として出場します。



熱戦を繰り広げる力自慢の盟友たち

JA職員として必要な基本を修得し、新社会人としての一助となることを目的としており今年で2回目です。

受入先の一つである小国町のキユウリ農家、宇都宮誠也さんは「朝早くから一生懸命にがんばってくれた。この体験を今後に生かしてほしい」と、励ましていました。

口蹄疫終息でせり再開2回目
小国郷家畜市場

JA阿蘇の小国郷家畜市場で口蹄疫終息後2回目のせり市が8月5日行われ、県内外から購入者が集まりました。

当日はあか雌23頭、あか去勢29頭、黒雌8頭、黒去勢12頭の計72頭が上場され、平均価格は、あか雌25万6358円、あか去勢31万7498円、黒雌29万2425円、黒去勢32万9509円となりました。口蹄疫終息後の7月せり単価と比べると、やや下げとなっていました。

農畜産農家の宮崎徳雄さんは「口蹄疫の終息とせりの再開に若干安心した。今後も警戒を緩めることなく、畜舎の衛生管理を強化したい」と感想を話していました。

優勝は
ゲートボール「黒川チーム」
グラウンドゴルフ「岩下けんさん」



ゲートボール24チーム、
グラウンドゴルフ224選手が参加した開会式

JA阿蘇年金友の会は9月4日「第10回親善ゲートボール大会」及び「第9回親善グラウンドゴルフ大会」を阿蘇市一の宮運動公園で行い、ゲートボールに24チーム、グラウンドゴルフに224人の選手が参加しました。本大会は会員相互の健康増進を図り、親睦と融和を深めることを目的に毎年行われています。

開会式では主催者の坂梨文明会長（阿蘇町支部）があいさつ。中尾雄二組合長が来賓祝辞を述べ、阿蘇町支部の岩永義弘選手が元



写真上：黒川チーム、写真下：優勝の岩下さん（中央）、準優勝の工藤さん（左）、3位の荒牧さん（右）



気に選手宣誓を行いました。競技では各コートで元気のプレーが展開され、選手は楽しい一日を過ごしました。

熱戦の結果、ゲートボールは黒川チーム、グラウンドゴルフは岩下けんさん（高森支部）が優勝しました。グラウンドゴルフ上位入賞者は11月18日、パークドーム熊本で行われる県大会に出場します。当日の優勝以下の成績は次のとおり。

▽ゲートボール準優勝：蘇陽Aチーム、3位：高森Bチーム
▽グラウンドゴルフ準優勝：工藤弘文さん（蘇陽支部）、3位：荒牧寛さん（高森支部）

地元小学生約30人が
環境保全活動で生き物調査
水土里ネット阿蘇

水土里ネット阿蘇（阿蘇土地改良区）は7月28日、農地・水・環境保全向上対策事業の一環として阿蘇市黒川の水田で地元の小学生約30人と「田んぼの生き物調査」を行いました。トノサマガエルやドンコ、カワニナなど20種類以上が見つかり、採取した生き物の観察会が行われました。熊本生物研究会の甲守崇さんは「二度の調査でこれだけの種類が見つかるのは、いい環境が整っている証拠です」と話し、参加した子供たちも「こんなに沢山の種類の生き物がいると



アミを使って生き物を採取する子供たち

口蹄疫終息で2回目のせり
再開となった「小国郷家畜市場」
（記事は前頁に掲載）



は思わなかった。夏休みの自由研究にしたい」と話していました。同地区には一昨年も数羽のナベヅルが確認されており、今後は稲を刈った後の水田に水を張るなどして、ツルが好む水環境や生物が息づく自然環境を維持していきけるように取り組み予定です。



生産者と市場とが意見交換会
南部花卉総合部会合同出荷会

J A阿蘇南部花卉総合部会(白石豊和部会長)は7月30日、南阿蘇村で2010年度合同出荷会議を開きました。当日は生産者・市場関係者ら約50人が出席し、現在の状況や今後の出荷などについて意見交換が行われました。この合同出荷会議の目的は消費低迷が続く中、市場担当者との意見交換を通じて、他産地よりも正確な情報を届けることで有利販売につなげていこうとするものです。また、同部会では市場からの要望や消費者の動向などを定期的に生産者へつなげることで、品質の高いものを出荷してきました。

担当職員は「この会議を通じて市場へ正確な情報をつなげることも大事だが、消費動向の変化にも迅速に対応していくことにも留意していきたい」と話していました。



写真1 挨拶をする白石豊和部会長

希少価値高い「色見スイカ」
8月中旬に出荷最盛期終える



J A阿蘇高森スイカ部会(岩下実部会長)では、8月10日より特産「色見スイカ」の出荷を始めました。今年には定植後の天候不順により、例年に比べ2日程度遅い出荷となりました。当日はJ Aの担当職員が集荷場に持ち込まれたスイカを1玉ずつ手でたきながら秀・優・良の3階級に分けて箱詰めし、60玉を出荷しました。同部会のスイカは、ほとんどのスイカ産地が終盤を迎える8月中旬が出荷最盛期で、玉の肥大が良く糖度も高いもので13度あり、地元では「色見スイカ」として有名でしたが、年々生産者や作付面積の減少により今では希少価値の高いスイカとなっています。

集荷場には、出荷を心待ちにし

ていた消費者が直接買いに来る姿も見られ、販売担当の上田裕樹職員は「今年には天候不順の影響で、やや小振りの玉となったが、味については例年に負けないものが出来たので自信を持って販売していきたい」と話していました。

写真2 検査終了後、箱詰めをする生産者

南部野菜センターを見学
中学生が地元農業を学ぶ



地元の中学生約40人が総合学習の時間を利用して、9月6日J A阿蘇南部野菜センターを訪れ

ました。これは地元農業を学ぶことを目的とし、併せて9月下旬に予定されている農家実習の事前学習も兼ねて行われました。当日は長陽中学校1年生が阿蘇地域の農産物について説明を受けました。特産のトマトを選果する施設見学では、色・形などの選別がされたトマトが箱詰めされ出荷されていく一連の流れに、初めて見る光景だけあって生徒達は釘付けになっていました。見学した生徒からは「赤くなっていないトマトを出荷しても熟れるのですか?」や「美味しいトマトはどうやって見分けたいですか?」などの質問が出ていました。

対応した後藤真智職員は「農家実習を通して自分達が食べているものが、どうやって出来るか体験してほしいし、自分達でもプランターなどを利用してミニ野菜を作って、収穫の喜びを知ってほしい」と話していました。

写真3 トマトの箱詰め作業を見学する中学生



12保育園に「トマト」を贈る
JA阿蘇南部トマト部会



JA阿蘇南部トマト部会(長尾睦雄部会長)は8月4日、部会員が居住している町村の保育園にトマトを贈呈しました。当日は保育園12カ所に部会役員14人が手分けをして届けました。このうち、南阿蘇村立長陽保育園では、村上副部会長が「みなさんの住んでいる地域でできたトマトです。このトマトを食べて大きく育ってください」とあいさつし、トマトを代表の園児に手渡しました。園児たちは「トマト、ありがたうございました」と元氣よくお礼の言葉を述べました。部会では6年前より地元保育園へ食材の提供を行っており、「子供たちが住んでいる所では、どんな野菜ができていのか知ってほしい」と話

前年の1割増10億円を目指す

中部トマト部会「出荷順調！」



JA阿蘇中部トマト部会では5月上旬に定植したトマト(約35ha作付け)が順調に出荷されています。阿蘇市管内では「りんか・サニイ」を栽培、日量7000ケース(1ケース4kg)を九州管内に出荷しています。8月下旬までの実績では数量48万ケース、金額5億3000万円、平均単価1099円(1ケース)。

出荷は霜が降る11月までの長期戦であり、昨年の販売高の1割増しの10億円を目指しています。

写真1 トマト選果作業の様子

しており、また村上洋二朗職員は将来を担う子供たちに少しでも役に立てると嬉しい」と話していました。

(写真2 トマトを受け取る園児たち)

秋の味覚「くり」の出荷
10月上旬まで200t見込む

JA阿蘇南部地区では8月26日より2010年産クリの出荷が本格的に始まりました。JA阿蘇の産地は低地の西原地区と山間部の蘇陽地区に分かれており、毎年、消費地へ安定した数量を出荷しています。今年は高温続きと降水量不足で肥大が悪いものの、出荷数量は前年を上回る見込みです。集荷場に持ち込まれたクリは担当者や検査員が手選別を行い、選果機で階級ごとに選別し、箱詰め作業が行われます。取材当日、西原地区では約300kgが中京地区へ集荷されました。今後も中京地区へ10月上旬まで出荷の予定です。

両地区の栽培面積は約150ha、出荷数量は200t前後と見込まれています。(写真3 手選別を行う担当者)



秋メロン10月末まで出荷
JA阿蘇白水メロン部会



白水メロン部会(後藤孝俊部会長)の秋メロン出荷が9月24日から本格的に始まりました。今年は気温が高かった影響でネットの張り方にやや荒さがありますが、例年に負けない出来となりました。同部会の秋メロンは品質・糖度ともに良好で、これまで市場より高い評価を得てきました。近年の価格低迷などにより、2010年産作付面積は1ha、生産者3人と減少しています。部会ではポジティブリスト制度を遵守するとともに、生産者が特定できるように生産者番号入りシールを1玉ずつ貼って出荷しています。

販売担当の河野雄一職員は「期待以上の大玉で糖度も15度以上あり、美味しく、安全安心のメロンを消費者へ届けることができる」と自信を持っていきます。出荷は10月末まで行われ、約1万2000玉が産地直売分も含めて九州管内に出荷されます。

(写真右) 検査を行った担当職員

出荷数量68万1000パック
販売金額1億7000万円

■JA阿蘇中部高設イチゴ部会



あいさつをする八木真部会長

JA阿蘇中部高設イチゴ部会は7月26日、2009年度反省会及び総会を阿蘇市で開き、部会員やJA関係者ら約30人が出席しました。

09年は、前年に比べ農家戸数16人(前年同)、栽培面積4.6ha(前年同)、出荷数量68万1000パック(1パック300g)前年比98%、販売金額1億7000万円(前年比95%)、平均単価245円(前年比98%)の実績を上げました。

総会開催のあいさつで八木真部会長は「収量、品質ともに出荷先に評価を得た。実績も前年並みに

近づいた」と話しました。

また、販売担当の森本光也職員より今年度の情勢報告、販売実績の報告があり、続いて指導員の浅久野衛職員より次年度へ向けた改善点として、「1・2月の天候不順により、3月の出荷量が減ったことが、全体収量減の要因となった。次年度へ向けて徹底した温度管理を指導していきたい」と説明しました。

■中部地区イチゴ
10月20日頃より出荷予定
同地区での販売高5億円見込む

JA阿蘇中部地区管内の嶋野武輝さんの圃場では8月28日、県下ではトップを切って2010年産イチゴ(紅ほっぺ)の定植が行われました。今年は残暑の中、昨年

に比べ1週間ほど早い定植となりました。嶋野さんはイチゴ生産を始めて35年、11年前からは補助事業により導入した高設栽培に取り組んでいます。今年の花芽の分化は、8月も高温が続いたため前年より遅くなると思われていましたが、8月下旬から夜間の温度が下がったため、花芽分化が例年並に順調に分化

しました。

花芽検鏡を行った浅久野衛指導員は「阿蘇は高冷地ということもあり、定植は平坦地に比べ2週間程早いですが、高温により当初は花芽分化の遅れが懸念されていた。しかし、順調に花芽が分化し定植できて良かった」と話していました。同地区の作付面積は14ha、生産者57人で販売高5億円を見込んでいます。出荷開始は早い作で10月20日頃となり、出荷先は主に関西地方市場となっています。



花芽検鏡を行なう浅久野衛職員



↑2010年産イチゴ「紅ほっぺ」定植作業

■南部イチゴ部会 蘇陽地区

イチゴ連続畝栽培で省力化
肥料3割減、作業時間5分の1



JA阿蘇南部イチゴ部会(山辺達也部会長)は6年前から蘇陽地区で連続畝栽培に取り組んでおり、その結果、作業時間や経費の省力化につながっています。

連続畝栽培は、前年に使用した畝の表層10cm程度を小型管理機で耕運する方法です。通常の栽培方法は収穫終了後に整地し、施肥・耕運し再び畝を作りますが、畝を作る時期の秋雨で定植が遅れることがありました。その反面、連続畝栽培では雨で畝が崩れることもなく適期定植が可能です。

5年前から同栽培に取り組む田中千男喜さんは「作業時間は従来に比べ5分の1。肥料も畝の上だけなのでコストが抑えられる」

と話しています。南部地区担当の後藤真智指導員は「作業時間の短縮や肥料代の軽減、生産者に喜ばれることも多いが、灌水量の調整など難しい面もある」と課題があることも話しています。尚、2010年度は4人が約60aで取り組んでいます。

(前頁写真)小型管理機で作業を行う生産者

2010産イチゴ定植終える 11月上旬には出荷始まる

■南部イチゴ部会

J A阿蘇南部イチゴ部会(山辺達也部会長)では8月30日の長陽地区を皮切りに、1番花の花芽検鏡が本格的に行われ、9月6日より2010年産イチゴの共同定植作業が始まりました。当日、イチゴ部会長陽支部では「さがほのか」の定植が行われました。

今年には花芽分化期の気温低下が昨年より遅かったため、定植も例年より3日程度遅くなりました。



花芽文化を確認する担当職員



共同作業により定植をする生産者

また今年には梅雨明けは早かったものの、猛暑日が続いたことで根の活性低下などが見られましたが、昨年に負けない苗の出来となり、山間部の蘇陽地区から始まった定植は9月15日頃ピークを迎えました。現在、同部会の生産者数は24人(前年同)、栽培面積3.8ha(前年比90%)となっており、品種構成は「紅ほっぺ」9%、「さがほのか」91%で、11月上旬には出荷が開始される予定です。

豊作と全量1等を祈願 2010年産米初検査

1等米と検査期間中の安全を願い、J A阿蘇は9月8日、阿蘇市小里米倉庫前で生産者・農産物検査員、J A関係者ら約50人が参加し、「豊作・全量1等祈願祭」と20

10年産米初検査を行いました。当日は主要品種である阿蘇特別栽培米「コシヒカリ」2200袋が検査され、一部で充実不足による2等米がみられましたが、おおむね1等米でした。

10年産米の生育は低温、日照不足により、茎数の確保が不足し取量は前年度並みのやや不良(作況指数95〜98)が見込まれています。

検査を行った田上稔検査員は「品質・粒張は平年に比べ良好で自信を持って販売できる。」と語っていました。今後「コシヒカリ」は9月下旬まで収穫が続く、「ヒノヒカリ」「あきげしき」と集荷が続きます。

J A阿蘇では予約依頼数27万8000依頼の全量集荷を目指しています。



真剣な表情で検査をする田上稔検査員

坂梨小5年生が稲刈り体験



青壮年部の指導のもと稲刈りをする児童

阿蘇市立坂梨小学校5年生11人が9月24日、今年5月に田植えをしたJ A阿蘇青壮年部盟友の水田で「阿蘇コシヒカリ」の稲刈りをしました。この米作り体験は10年前から青壮年部一の宮支部が、小学校と一緒に食育・総合学習の一環で行っているものです。

当日は一の宮支部盟友の鳴川孝宏さんから刈り方を教わり、苦勞しながらも5aを1時間程で刈り取りました。子供たちは疲れた様子でしたが、「みんなと稲刈りができて、楽しかった。早くおにぎりにして食べたい」と笑顔で語っていました。今後、学校では収穫祭を開く予定で、刈り取った新米は盟友も一緒に参加しておにぎりになり、また白米の販売などが計画されているそうです。

「ほりだし君」市場で高い評価
貯蔵力高め2000t出荷予定
西原甘藷部会



J A阿蘇西原甘藷部会(岩木司部会長)では、8月30日より2010年産ほりだし君(甘藷)の出荷が始まりました。今年は定植後、天候不順により初期生育の遅れが見られ、例年に比べ肥大が悪く小振りの出来となっていますが、味・品質については例年に負けない出来となっています。

8月末現在、シ階級中心の出荷となっており、日量1200〜1300ケース(1ケース5kg)を中京地区などに出荷しています。今年の出荷計画は、年明け以降に出荷最盛期になる貯蔵分を含め2000tの予定です。販売担当の副田慶太職員は「例年に負けない品質のものが出来ているので、消費者へ安心安全な甘藷が届けられる」と語っていました。



同部会では、役員市場視察時に指摘された品質均一化の改善を早急に行うために、毎日、出荷された中から各生産者が1箱ずつ抜き取り、目揃え会を実施しており、市場より高い評価を得ています。
写真上：出荷規格を検査する担当職員、写真下：出荷に先立ち8月6日、色・形・生育状況を確認した「掘り取り調査の様子」

期待の「クイックスイート」
12月まで60〜70tを出荷

西原甘藷部会では2010年産「クイックスイート」出荷を9月上旬から始めました。同品種は高系14号よりも色・形状が優れ、これまでの甘藷を調理するのに必要な60度の熱よりも低い40度という低温でも調理できるのが特長です。さらに早生品種でもあることから、早期に出荷対応が出来るというメ

リットがあり、今後の作付拡大に期待がかかっています。また市場関係者が西原甘藷部会を訪問し「クイックスイート」試食した際、その商品力に出荷の要望が強く出されてきました。

今年も定植後、天候不順により初期生育が遅れが見られ、例年に比べ小振りですが、味・品質とも良質なものになっています。

2010年産の栽培概況は生産者15人(全体の約20%)、作付面積3ha(同約5%)で、現在、週2回の出荷(1回に400ケース×1ケース5kg)で、12月までに60〜70tが予定されています。

販売担当の副田慶太職員は「販売単価が低迷する中、生産者・産地に勢いを取り戻す品種だ」と、今後の販売拡大に期待しています。次年度は作付面積を約10ha程度まで拡大する予定です。



クイックスイートの収穫作業

高冷地に新規作物導入
高森町野尻地区で「白ネギ」栽培



熱心に行われた白ねぎの講習会

高冷地露地野菜の価格安定を計ろうと、2010年度から高森町野尻地区で白ネギ「長宝葱」の栽培を生産者3人、面積35aで行っています。

栽培にあたっては阿蘇地域振興局やJAの指導のもと、土壌分析を行い、分析結果に基づいた肥料設計で栽培し、また定期的に講習会を行い品質向上に努めています。白ネギの生育適温は15〜20度で、高温になると生育が止まるなどの障害が出るため、高冷地である阿蘇の新規作物として注目されています。

販売先は県内で、出荷量は3kg(300g×10束)で、2500ケースを目標に本格的な出荷は10月から始まっています。

■JA阿蘇南部ナス部会



者に見てもらおう
ことで、安心安全
な農産物作りに
取り組んでいる
生産者の姿が理
解してもらえら
これからも消費
者を裏切らない
ような農産物を
届けていきたい」
と話していました。

（写真上）阿蘇の農家について話しを聞く参加者、写真下）ハウス前でヒゴムラサキを試食する参加者

JA阿蘇南部ナス部会（吉良山友二部会長）は8月22日、「ヒゴムラサキ収穫体験ツアー」の参加者と交流会を開きました。この収穫体験ツアーは大手食品メーカーのハウス食品が企画したもので、当日は一般応募で選ばれた40人の消費者が参加しました。

一行は森田勝さんのハウスを訪れ、収穫体験や試食をしました。森田さんは「阿蘇の大自然の中で育った美味しいヒゴムラサキをよく見て頂きたい」と出迎えました。参加した親子は「ナスが育っているところを初めて見た。大きいヒゴムラサキが収穫できた」と喜んでいました。

収穫体験後は、同部会女性部の協力でカレー作りが行われました。吉良山部会長は「体験ツアーは、実際に栽培しているハウスを消費

ヒゴムラサキ後半戦へ突入
最後まで高品質品物を消費地へ

南部ナス部会は9月17日、2010年度中間検討会をJA高森中央支所で行い、生産者ら約30人が参加しました。この中間検討会はヒゴムラサキ出荷後半戦突入となる同時期に選別基準の確認を行い、最後まで高品質のものを安定出荷することを目的として開かれたものです。

検討会を前に吉良山部会長が「生産者一人一人の力が必要なので、部会一丸となって選別の強化に協力して欲しい」と力強く訴えました。その後、各市場及び青果物コント

ロールセンターより情勢報告が行われしました。現物査定では、販売担当の上田裕樹職員が出荷開始時に確認した等級の現物確認及び箱詰めする際の注意点などを説明しました。

同部会は、「ヒゴムラサキ」のブランド確立を目指し、生産者・自治体・JAが協力し、首都圏への販売強化を行っています。また、青果物コントロールセンターを活用し、中京・九州地区都市圏への販売強化にも力を入れています。販売担当者は「出荷終盤に選別強化をすることで、さらに消費地より選ばれる産地となっていく」と、今後の意気込みを話しています。8月末までの実績は出荷数量1221（計画対比40%）、販売金額2870万3千円（同51%）、販売単価1643円/1ケース（同128%）となっています。



出荷規格の説明を行うJA担当職員

JA阿蘇青壮年部久木野支部
地元園児と伝統野菜作り



水前寺菜の苗を定植する園児ら

JA阿蘇青壮年部久木野支部（小林智征支部長）は9月16日、南阿蘇村立久木野保育所の年長児18人と伝統野菜作りの取り組みを始めました。この取り組みは、園児たちが野菜の収穫体験などを通して農業に興味を持ってもらうことを目的とし、南阿蘇ふるさと野菜振興会が県の「地域の農縁づくり支援事業」を活用したものです。

当日は、保育所近くの畑に熊本県の伝統野菜「水前寺菜」の苗植え作業と「平家大根」の種蒔き作業を行いました。作業が終わった後、園児たちは「美味しい水前寺菜と大根が出来ますように」と願いを込めていました。水前寺菜と平家大根は12月に収穫予定で、保育所の昼食のおかずとして調理されるそうです。

技術サービスやお客様満足
一層の向上を目的に実施



JA阿蘇は9月17日、今年7月に開催したJA阿蘇SS油外マッチレースの表彰式を阿蘇市で行いました。

このマッチレースは、JA・SSスタッフの接客・点検・技術サービスの向上並びに組合員(お客様)満足・従業員満足を図るとともに、JA阿蘇SS経営の強化に資する目的のもと、管内全SSを対象として行われたものです。

表彰式では、佐伯二雄参事が「油外商品とよりよいサービスの提供に力を入れ、お客様に選ばれるSS作りに努めて頂きたい」とあいさつ。結果報告が行われた後、佐伯参事より油外全部門で計画

対比の105%以上を達成した馬見原・久木野・長陽の3SS所長に賞状と褒賞金が贈られました。

受賞した久木野SSの所長で、JA阿蘇代表所長も兼務する上村紘亮所長が「毎回、このマッチレースはスタッフ全員が楽しみにしている。達成できたのは、スタッフ全員が頑張ってくれたおかげです。今後も、目標をクリアしていきますと次回への意気込みを述べました。

JA阿蘇では年2回の油外マッチレースを計画しており、12月にも実施予定です。

(写真上)表彰を受けた各SSの代表者

食育活動の一環として
幼稚園児らが
サツマイモ掘り

あそひかり幼稚園(阿蘇市一の宮町)では食育活動の一環として10月6日、一の宮町宮地の畑で園児ら約20人が参加してサツマイモ掘りを行いました。

畑では、先ず幼稚園の先生が「サツマイモはどこにできているでしょうか」と問いかけると、園児たちは「一斉に「土の中!!」と胸を張って元気よく答えました。

どう！
大きいでしょう!!



ちよっと掘れたよ!



続いて、サツマイモの掘り方の説明が行われると、腕まくりをした園児たちは興味津々の様子で掘り始めました。掘り終えた園児らはやや疲れた様子でしたが、一様に「楽しかった。大きいサツマイモが採れてうれしい!」などと、笑顔で語っていました。

「11月には、秋の味覚であるリンゴ、ナシ、サツマイモ、カキなどを一口大に切り、品物名は園児には伏せて食べさせ、味覚の大切さ、食に対しての興味を持たせたい」と、あそひかり幼稚園の工藤園長は今後の計画を語っていました。

JA・SSドライブウェイ
サービスコンテスト熊本県大会
競技のひとつコマ

(新聞記事は1頁に掲載しています)



笠野選手の
「推進コース」の
競技

秋吉選手の
「点検コース」の
競技



試技をする
昨年度最優秀賞の
南利圭介職員

■JA阿蘇大会 最優秀賞に馬見原SSの 笠野祐希職員



JA阿蘇購買部は8月3日、管内一の宮給油所でドライブウェイサービスコンテストJA阿蘇大会を開きました。中尾雄二組合長は開式のあいさつで「昨年度、管内にも2店舗のセルフSSを開所した。SSを取り巻く環境が日々激化している中、セルフサービスのSS並びにセルフSSに共通して言えることは、サービスの向上であり、他店舗との差別化である。選手の皆さんはSSの代表者として、非常に厳しい訓練を行ってきた。日常の訓練、営業の中で培われた態度・言葉が競技に出てくる。皆の模範として競技して頂

きたい」と激励しました。

同大会は、接客・点検・技術サービスの向上を図るとともに、経営の強化に資する目的を掲げ毎年行われており、今回も管内各SS選抜の14名が出場しました。審査はJA熊本経済連燃料課と本所係が担当し、接客態度などの基本的なことから、洗車や点検内容の説明・推進といった応用的なことまで詳細にわたり厳しくチェックしました。競技の結果、4名の職員が入賞し、上位2名には中尾組合長より県大会(9月12日開催)出場選手として推戴状の授与式が行われました。

入賞者は次の通り。(SS)

- ▽最優秀賞 笠野 祐希(馬見原)
- ▽優秀賞 秋吉 功貴(西原)
- ▽優良賞 齊藤 光弘(久木野)
- ▽審査委員長特別賞

|| 内田 優美(西原)

■熊本県大会

秋吉選手が第2位の優秀賞
笠野選手が敢闘賞を受賞



秋吉選手(左)と笠野選手

9月12日、第33回JA・SSドライブウェイサービスコンテスト熊本県大会がJAやつしろ「ふれあいSS」で開催され、県内JAの代表21名が参加しました。JA阿蘇からは、地区予選を勝ち抜いた馬見原SSの笠野祐希選手と西原SSの秋吉功貴選手が出場しました。

審査は点検と推進コースに分かれ、点検コースでは、接客・安全・技術の各サービス、総合印象の4部門を詳細にわたり県下JA代表所長や全農・経済連の17名が行いました。また推進コースでは、総合印象・推進の2部門を7名の外部審査員が行いました。

8番目に競技した秋吉選手は点検コースに出場。現在、西原SSでアルバイトをしながら高校に通う学生で、中尾組合長に「優勝宣言」を行い競技に臨みました。昨年、最優秀賞を受賞した先輩の南利職員に日々特訓を受け、機敏な車輦誘導や点検をこなし、あふれる笑顔で、日頃、西原SSで行っている接客ぶりを全面に出し切りました。

18番目に競技した笠野選手は推進コースに出場。大好きな妻や娘に毎日練習で遅くなったことを謝り、自分の演技をしっかりと見てくれるようお願い、競技に挑みました。お客

様に対して待ち時間を飽かせない接客態度、車の不具合を特徴ある丁寧な説明などで行い完璧な演技内容を披露しました。

審査の結果、秋吉選手が優秀賞、笠野選手が敢闘賞を受賞。残念ながら団体部門での1位は逃しました。購買部の松岡勝也担当は「2人も毎日、営業終了後遅くまで練習しました。惜しくも団体賞は逃しましたが、2人とも最高の演技でした。選手は勿論、OBの方々や選手配属のSS所長、練習に駆けつけて頂いた全ての方々に感謝します。特に2人は、予選を含め2カ月以上と長い期間の練習、大変お疲れ様でした」と、その労をねぎらっていました。



入賞した2人の選手とJA阿蘇応援団の皆さん

JA阿蘇「まるごとあそっ子スクール」 9月25日、大根収穫と乳搾りを体験



JA阿蘇が主催する「まるごとあそっ子スクール」が9月25日開かれました。今回のスクールには阿蘇郡市からあそっ子たち34人が参加しました。そして、ダイコン収穫と哺乳体験をしました。

大根収穫は小国郷大根部会の宮崎徳雄さんの圃場で行われました。初めにダイコンの生育や小国ダイコンの説明を聞いた後、あそっ子らは一斉に圃場に入りダイコンの収穫に挑戦しました。簡単に抜ける大きなダイコンをお互い自慢しあいながら楽しそうに収穫作業をしていました。➤

次に酪農家の高村武志さんの畜舎で酪農見学と乳搾り、哺乳体験などをしました。高村さんよりジャージー牛の説明を聞き、牛舎内を見学し、産まれたばかりの子牛にミルクをあげました。大きな哺乳ピンを抱えて子牛に差し出すと、子牛に力強く引っ張られましたが、手伝ってもらいながら無事にミルクを飲ませることができました。哺乳体験をしたあそっ子は「すごい力で引っ張られた。とてもかわかったよ」と笑顔で答えていました。

最後は、全員でパーベキューをして先生役のJA職員や関係者の皆さんとの懇親を深めて終了しました。

大きなダイコンを
ゲット!!

子牛にミルクを
あげました♡

おいしい
パーベキューに
ピース!



「まるごとあそっ子スクール」参加者全員でハイチーズ!



第35回JA熊本県親善野球大会 JA阿蘇選抜チーム、初戦を飾れず…



第35回JA熊本県親善野球大会が7月31日と8月1日の2日間、合志市総合運動公園で行われました。本来ならJA阿蘇からは中央支所単位での出場により予選を行い、優勝したチームが県大会に出場しますが、口蹄疫の関係で中止となったため、今回は各中央支所から強豪を集めJA阿蘇選抜チームで出場しました。しかし、1回戦でJA阿蘇は優勝経験のある強豪JAやつしろと対戦、何度もチャンスを作りながらも得点できず、惜しくも1回戦敗退となりました。



「第35回JA熊本県親善ソフトバレーボール大会」 善戦したものの、決勝トーナメント出場できず

第35回JA熊本県親善ソフトバレーボール大会が9月11日、大津町運動公園総合体育館で開かれ、JA阿蘇から2チーム16人の選手が3出場しました。

大会には県下JA・連合会13団体31チームが出場、8コートで予選を行い、まるごと阿蘇A(阿蘇町)はJA八代・JA芦北・JA本渡五和と、まるごと阿蘇B(阿蘇町)は、JA八代・JA上益城・JA苓北とそ

れぞれ対戦しました。善戦したものの、惜しくも決勝トーナメントへ出場することが出来ませんでした。選手は楽しい一日を過ごしました。

業務終了後の練習で選手の皆さんは大変でしたが、来年こそは優勝目指して頑張ってください。応援者の皆さんもお疲れ様でした。



「まるごと阿蘇A」も「まるごと阿蘇B」も一緒になって記念撮影

JA阿蘇職員異動のお知らせ

氏名	新 任 令	発令年月日	旧 任 令
宮崎 哲也	一の宮中央支所長代理兼金融課長(次長待遇)	平成22年9月1日	一の宮中央支所長代理兼金融共済課長(次長待遇)
中島 隆文	一の宮中央支所共済課長	平成22年9月1日	共済部業務課業務係
佐伯 一雄	参事	平成22年10月1日	参事兼審査・債権対策室事務取扱
永野 雅行	審査・債権対策室長	平成22年10月1日	西原中央支所長
竹内 龍一	西原中央支所長	平成22年10月1日	西原農機車輛センター長
宮川 潔	一の宮中央支所共済課一の宮地区 ブロックLAチーフ(課長待遇)	平成22年10月1日	一の宮中央支所金融共済課一の宮地区 ブロックLAチーフ(課長待遇)
志賀 惟光	一の宮農機員センター長	平成22年10月1日	一の宮農機員センター農機係
山下 信明	西原農機車輛センター長	平成22年10月1日	西原農機車輛センター農機係
時松 一幸	営農部畜販事業課小国地区朝どり市兼生産指導主任	平成22年10月1日	営農部園芸課小国地区主任兼指導販売係小国地区担当
後藤弘之助	小国郷中央支所購買課長代理	平成22年10月1日	小国郷中央支所購買課小国郷給油所長
倉岡みさ子	一の宮中央支所金融課金融係	平成22年10月1日	一の宮中央支所金融共済課金融共済係
鳴川由美子	一の宮中央支所共済課LA係	平成22年10月1日	一の宮中央支所金融共済課LA係
白石のり子	一の宮中央支所共済課LA係	平成22年10月1日	一の宮中央支所金融共済課LA係
塚本かよみ	一の宮中央支所共済課LA係	平成22年10月1日	一の宮中央支所金融共済課LA係
村上ひろみ	一の宮中央支所金融課金融係	平成22年10月1日	一の宮中央支所金融共済課金融共済係
市原 幸代	一の宮中央支所共済課共済係	平成22年10月1日	一の宮中央支所金融共済課金融共済係
三城 浩美	一の宮中央支所共済課LA係	平成22年10月1日	一の宮中央支所金融共済課LA係
高橋 幸也	一の宮中央支所金融課金融渉外係	平成22年10月1日	一の宮中央支所金融共済課金融渉外係
山本 孝子	一の宮中央支所共済課LA係	平成22年10月1日	一の宮中央支所金融共済課LA係
原山 和親	営農部園芸課小国地区主任兼指導販売係小国地区担当	平成22年10月1日	営農部園芸課指導係小国地区担当
工藤 邦春	一の宮中央支所共済課LA係(波野)	平成22年10月1日	一の宮中央支所金融共済課LA係(波野)
河津 剛成	小国郷中央支所購買課小国郷給油所長	平成22年10月1日	小国郷中央支所購買課購買係
陣野 敬昌	一の宮中央支所金融課金融係	平成22年10月1日	一の宮中央支所金融共済課金融共済係
古澤 秀樹	一の宮中央支所金融課金融係	平成22年10月1日	一の宮中央支所金融共済課金融共済係
上島 由香	一の宮中央支所金融課金融係	平成22年10月1日	一の宮中央支所金融共済課金融共済係
中村 薫	一の宮中央支所共済課共済係	平成22年10月1日	一の宮中央支所金融共済課金融共済係
杉田 健	阿蘇町農機車輛センター車輛係	平成22年10月1日	西原中央支所金融共済係
馬場 弘	西原農機車輛センター車輛係	平成22年10月1日	阿蘇町農機車輛センター車輛係
戸田 佳秀	西原中央支所購買課購買係	平成22年10月1日	西原中央支所購買課西原給油所係

理事会・監事会報告

■平成22年度第7回理事会

日時 平成22年8月27日午後1時30分

場所 一の宮中央支所会議室

○非常例検査講評

(熊本県農林水産部団体支援総室団体検査室)

1. 開会
2. 組合長挨拶
3. 協議事項

委員会報告(経済専門委員会)

7月末実績について

1) 給与規程(職位手当区分表)の改正について

2) 農業生産資金の改正について

3) 固定資産の処分について

4) 建設委員の選出について

①阿蘇市堆肥センターストックヤード工事・ショベルカー導入

②阿蘇市大豆乾燥機・乾燥施設風通機導入工事

③アスパラ計量結束機導入工事

④平成22年度新規参入円滑化対策事業(畜舎建設工事)

5) 平成22年度産出荷契約米の内金について

報告事項

1) JAバンク基本方針に基づく「経営状況に関する事項の報告」について

2) 平成22年度上半期決算額即監査に伴う休業について

3) 青果物コントロールセンターの情勢報告について

4. 閉会

■平成22年度第8回理事会

日時 平成22年9月29日午後1時30分

場所 一の宮中央支所会議室

1. 開会
2. 組合長挨拶
3. 協議事項

委員会報告(経済専門委員会)

8月末実績について

1) 裁判外紛争解決制度(ADR)にかかる改正農協法への対応について

2) JAバンク利用者サポート等対応要領の改正について

3) 業務方法書の改正について

4) 組織規程の改正について

5) 紛争処理規程の改正について

6) JA共済苦情対応要領の改正について

7) 反社会的勢力への対応に関する基本方針の制定について

8) 貸出金について ➡

報告事項

1) 平成22年度上期決算額即予備監査実施要領について

2) JA阿蘇10周年記念感謝祭について

3) 平成22年度米需給調整・需要拡大事業について

4) 平成22年度産米集荷状況について

4. 閉会

●平成22年度第5回監事会

日時 平成22年9月13日午後1時30分

場所 本所2階第1会議室

1. 開会

2. 挨拶

3. 議題

1) 平成22年度米麦等額即監事監査報告書(案)について

2) 平成22年度上半期決算額即資産予備監事監査(案)について

3) 平成22年度上半期決算事務監事監査日程(案)について

4) 常勤役員・監事会定例会議について

5) その他

①平成22年度全国監査機構期中監査日程について

4. 閉会

●平成22年度第6回監事会

日時 平成22年9月24日午後6時

場所 本所2階第1会議室

1. 開会

2. 挨拶

3. 議題

1) 固定資産現地確認(ハウスリース)報告について

2) 支所運営委員会規程の運用(報告)について

3) 第1回代表理事・監事会の定例会議開催について

4) その他

4. 閉会





利用可能な手続

- 申告 …………… 所得税、法人税、消費税、酒税及び印紙税
- 納税 …………… すべての国税
- 申請・届出等 …… 納税証明書の交付請求、各種法定調書、各種異動届出書など

e-Taxを利用するには

- 電子証明書等の準備 ※電子証明書がICカードに格納されている場合は、ICカードリーダーが必要です。
- 利用者識別番号等の取得
※e-Taxホームページからオンラインで開始届出書を提出すれば、即時に発行（通知）されます。
- e-Taxソフト等から電子証明書等を登録（初期登録）
※e-Taxソフトは、e-Taxホームページから無償でダウンロードできます。

詳しくは、e-Taxホームページ（www.e-taxnta.go.jp）をご覧ください。

利用開始の手続、利用時間、パソコンの環境、e-Taxソフトの操作方法、よくある質問など、e-Taxに関する最新の情報についてお知らせしていますので、ご利用前にご確認ください。

使って実感！ネットで申告「e-Tax」

熊本国税局・税務署

利用可能な手続

- 申告 …………… 所得税、法人税、消費税、酒税及び印紙税
- 納税 …………… すべての国税
- 申請・届出等 …… 納税証明書の交付請求、各種法定調書、各種異動届出書など

詳しくは、e-Taxホームページ（www.e-taxnta.go.jp）をご覧ください。

利用開始の手続、利用時間、パソコンの環境、e-Taxソフトの操作方法、よくある質問など、e-Taxに関する最新情報についてお知らせしていますので、ご利用前にご確認ください。

○ 使って実感！

ネットで申告「e-Tax」

「国税電子申告・納税システム（e-Tax）」では、自宅やオフィス、税理士事務所などからインターネットを利用して、国税に関する各種手続①所得税、法人税、消費税、酒税及び印紙税の申告、②すべての国税の納税、③納税証明書の交付請求及び法定調書の提出などの申請・届出等）ができます。

詳しくは、e-Taxホームページ（<http://www.e-tax.nta.go.jp>）をご覧ください。

○ e-Taxに関する情報は、
e-Taxホームページを
「ご覧ください」

利用開始の手続、利用時間、パソコンの環境、e-Taxソフトの操作方法、よくある質問など、e-Taxに関する最新の情報についてお知らせしていますので、「利用の前にご確認ください」。

（<http://www.e-tax.nta.go.jp>）